

令和7年度第1回宇治市文化芸術推進委員会議事録

日時 令和7年8月21日（木）午後2時～午後4時

場所 宇治市職員会館 2階大会議室

出席者

宇治市文化芸術推進委員会

委員長 滋野 浩毅

職務代理 吉水 利明

委員 小宮山 恭子

〃 玉井 宗文

〃 津田 貴子

〃 西田 尚武

〃 左 美幸

〃 福井 ひろ子

事務局

産業観光部部長 脇坂 英昭

産業観光部副部長 齊藤 政也

産業観光部 文化スポーツ課長

〃 観光振興課長

〃 文化スポーツ課 副課長兼文化係長

〃 〃 文化係 主任

〃 〃 文化係 主事

福祉こども部 障害福祉課副課長

都市整備部 歴史まちづくり推進課長

教育部 生涯学習課長

〃 学校教育課長

〃 教育支援課長

吉田 知史

杉本 隆之

倉井 麗子

佐田 晴香

伊原 有哉

木内 小季

谷澤 潔

福山 誠一

安留 岳宣

井上 宜久

資料

・次第

・会議資料 資料1～資料4

会議内容

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事等

(1) 文化芸術振興基本計画における令和6年度の事業実施状況について

- ・事務局より「文化芸術振興基本計画における令和6年度の事業実施状況について」資料1説明。

(委員長)

「平安の息吹を感じる 秋の特別公開」にて、広報の仕方についてもう一工夫必要とあるが、どういうところが課題か。

(事務局)

観光協会に広報に協力いただいたが、連携が遅く告知が直前になった。早くから連携できていれば、より広く広報いただくことが出来たのではないかと考えている。

(委員)

百人一首を学校でする機会は少ないのではないか。参加者はどのように集めたのか。

(事務局)

学校の授業ではやっていないが、育成学級でやられているので、そちらにも声をかけ、参加いただいた。

(委員長)

障害者文化芸術活動振興事業について、障害者アートは世界的にも注目されている。アーティストの発掘が課題とあるが、出展者が少ないということか。

(事務局)

令和6年度からの新規事業で、宇治市在住・在勤・宇治市の施設を利用されている方など宇治ゆかりのアーティストを中心に上げているが、アーティスト活動をされている方の情報が集まりにくいこと、また、施設からは、創作活動に割く時間が取れないという意見もあり、それらが課題と考えている。引続き、施設や関係者と協力して取り組んでいきたい。

(2) 紫式部ゆかりのまちうじ魅力発信プロジェクトについて

- ・事務局より「紫式部ゆかりのまちうじ魅力発信プロジェクトについて」資料2説明。

(委員)

大河ドラマ放映中の観光客数の増加に伴う外国人観光客のマナーについて何か問題あるか。

(事務局)

外国人観光客を中心に、ごみ捨てやトイレの利用等のマナーの問題があり、対応については地域の方と一緒に協力して進めていきたい。

(委員)

外国人観光客は増加しているが、日本人観光客が減っている印象がある。日本人観光客の増加に向けて、萬福寺の国宝指定について何か取り組んでいるか。

(事務局)

東京駅のサイネージ広告のほか、3月に国宝指定された記念フォーラムとして、萬福寺を会場にした講座を開いた。オーバーツーリズムにならないように周遊観光になる仕掛けを広告事業者と連携してPRしている。

(委員)

友人から宇治市に行きたいが、宇治市に観光に来る外国人観光客の多さを気にしてなかなか来れないとの声を聞く。また、萬福寺に行きたくても他の観光地との距離があるので、平等院等から黄檗への巡回バスなどの実証実験をしてもよいのではないか。

(委員)

周遊を促進する施策があればと思う。

(委員)

宇治陵など知らない人が多い。もっと活用できないか。1日で観光地を回れるが観光地やルートを知らないといった声を聞く。松殿山荘での子供向けの体験コーナーとあるが、大人への広報をもっと行い、宇治陵とあわせて活用してほしい。

(事務局)

観光地のルートについては、昨年度は任天堂ミュージアムのオープンに伴い、小倉と中宇治をつなぐ周遊マップの作成を行った。今年度は萬福寺の国宝指定に伴い黄檗と中宇治をつなぐ周遊マップを作成予定。

今回資料に掲載しているのは松殿山荘の親子体験コーナーだが、それ以外にも松殿山荘で年2回一般公開を行われている。まずは広く周知いただくため広報を行っていく。

(3) 令和7年度の主な文化事業について

- ・事務局より「令和7年度の主な文化事業について」**資料3**説明。

(委員長)

資料内の数値目標について、文化芸術を鑑賞している市民の割合及び文化芸術活動をしている市民の割合が令和3年度の経過策定時から減っているが、要因はわかるか。

(事務局)

文化芸術の鑑賞については多様なジャンルがあり、無料で楽しめるものもある。場所や費用だけの問題ではないと考えるが、一方で、費用が高いという声も少し増

えている状況である。

(委員長)

暮らしを豊かにするうえで文化芸術を必要とする割合は減っているものの高い水準にあり、大事だという認識はあるが鑑賞や活動はそこまでできていないということかと思う。そういった層にいかにもアクセスするかが重要ではないか。

(委員)

ロビーコンサートについて、城陽市は200人ほど入れるホールでティートタイムコンサートが行われており、8割程度埋まっている印象がある。ロビーコンサートは格調が高い。ホールの方が周りに気兼ねせず演奏できる。ロビーでやることも良いことだが、何か手法等を変えていかないと、集客が上向かないのではないか。

(事務局)

現状のロビーコンサートも満席で行っており、ロビーが様々な取り組みに活用されているため、レイアウトの変更等により客席数が減っている。観覧者数の増加及び開催場所について今後も検討していく。

(委員長)

今後の文化振興について、各委員から順番に意見を伺いたい。

(委員)

- ・紫式部文学賞・市民文化賞を無くさないでほしい。書きたい人が発表する場があることは重要。

(委員)

- ・対鳳庵のお茶席に来てもらえる方がほとんど外国人であるため、宇治市民に来てほしい。中学生に体験してもらえないか。
- ・市民にお茶席を体験してもらい取り組みとして、11月に市役所ロビーでお抹茶のふるまいを実施する。
- ・多くの活動者がいた宇治公民館が無くなり、活動を再開できないという方が多くおられる。

(委員)

- ・文化活動をする上で場所は大切だが、地の利が悪い。文化センターへのバスも最終のバス時刻が早く利用しにくい。
- ・各団体の高齢化が進んでおり、どこかで食い止めなければ、継続し次世代へ継承していくことが難しい。

(委員)

- ・京の七夕について、観光協会の動きを含めもう少し改善すべき。

(委員)

- ・バスの周遊があれば良い。
- ・勉強できるスペースがない。文献のある図書館で出来ないのはなぜか。

(事務局)

図書館を整備した時期は古く、図書館に求められる役割も変わってきている。今後どういう活用の仕方が良いかは、教育委員会とも共有し検討していきたい。

(委員)

- ・うじのまち魅力再発見は良い事業。お茶を含め子どもの頃の体験は残る。
- ・鵜飼も宇治が誇る文化。出来れば子どもが触れる機会を。
- ・公民館の減少により、活動拠点を見つけるのが難しい。

(委員)

- ・菟道ふれあいセンターや小倉の学校跡地の活用は。小倉駅前の空き地を利用して市の施設を造ることはできないか。
- ・鉄道会社を活用して宇治を盛り上げてほしい。

(事務局)

菟道ふれあいの跡地については、市民協働推進課が担当課となっており、中宇治地域は市民協働推進拠点を整備するという方向で計画に向けた取り組みが進んでいる。

小倉の小中一貫校による学校の統廃合のうち、北小倉小はスポーツを中心にした活動拠点として、西宇治体育館と一体的な活用の方法を検討している。

小倉駅前の空き地は民地のため、すぐに対応は難しいが、任天堂ミュージアムもあることから、市としても活用できないか都市計画の方で検討している。

鉄道との連携は行っているが、さらに目に見える形で活用していく。

(委員)

- ・高齢者への情報の発信として、HP・LINE以外で行ってほしい。最も見る市政だよりは、読みやすくすべき。広報板については、以前ほど目に留まらなくなっている。

(4) 令和7年度「源氏ろまん2025」(案)について

- ・事務局より「令和7年度「源氏ろまん2025」(案)について」資料4説明。

(委員)

紫式部文学賞の会場を文化会館の小ホールに変更して良いと思う。講演会は集客できる人を呼んだほうが良いのではないか。

(事務局)

講演会は紫式部文学賞の受賞者をお願いしている。

(委員長)

高齢化や活動拠点等の問題があるが、宇治の文化活動を育んできたのが文化祭、活動の拠点となっていたのが公民館であり、これからの市民の文化活動を盛り上げていくためにどうすべきか考えていく必要がある。また、宇治には文化財や文化資源が多くあるので、それらをどのように魅力的に市民や観光客に伝えていくか、宇治の文化政策を考える上で、トータル的に考えていく必要がある。活発な議事進行に感謝する。

4. その他

(事務局)

議事日程(4)「令和7年度「源氏ろまん2025」(案)について」は、本日の
いただいた意見等も踏まえ、最終的に決定した内容につて、後日報告させていただく。

5. 閉会